

とまこまいしびじゅつはくぶつかん  
苫小牧市美術博物館の

みりよく つた  
魅力を伝える

# ぴとま

第1号  
2014年8月

青森県立美術館コレクション展は  
七月十九日から九月十五日まで

やっています。この特別展は青森県立

美術館がもっている作品を借りてきて、それを

展示しているそうです。また美術館開館一

周年を記念して行われています。

僕は展示されている作品を見て、青森の作者

の作品は結構こわいものが多いと思いました。

また、他の作品に比べて独特な作品が多いと思

いました。

みなさんも見に来てください。(的場翔)

青森県立美術館コレクション展の作品の印

象は、「つた」です。

三つの部屋があって、一つ目の部屋には絵や立

体の作品があって、二つ目の部屋には絵とマンガ

があって、三つ目の部屋にはクルクル回っている

物をカメラが上下に動いて映している作品があ

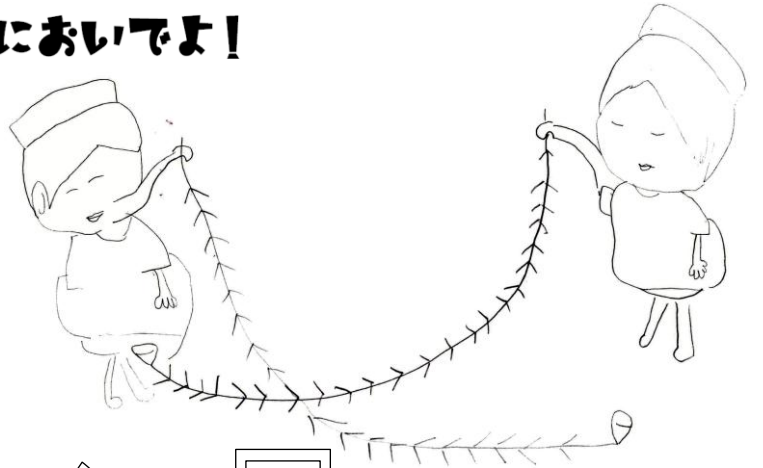
りました。(熊谷陽奈)



青森県立  
美術館  
コレクション展

あみゅーにいったよ!あみゅーにおいでよ!

# 青森県立 美術館 コレクション展 アオモリ・アヴァンギャルド



最初の印象は、ちょっと気持ち悪か

ったです。その中で印象に残った

のは、奈良美智さんの『Pancake

Kamikaze』と『Spockie』と『NININ

』の作品が印象に残りました。『NININ

』も、ほかの作品と違

って、かわいい感じ

の作品でした。(菊

池りの)

私は奈良美智さん

の絵が気に入りま

した。一見、ただ

可愛いだけだけ、

よく見ると、なにか

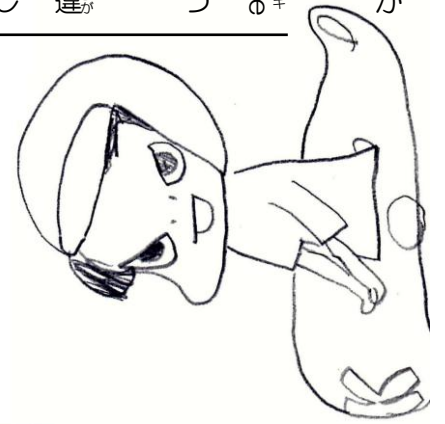
悲しさを感じまし

た。少し不気味で

不思議な雰囲気も

面白いなあと思いま

した。(山本舞羽)



奈良美智さんは、一九

五九年、青森県弘前市生まれ。

若い世代を中心に世界的によく知

られています。どこか挑戦的な印

象を与える絵を描きます。絵だけ

でなく、「犬の像」も制作。ほかに

も、絵本、本の装丁や挿絵などさま

ざまな領域で広く知られていま

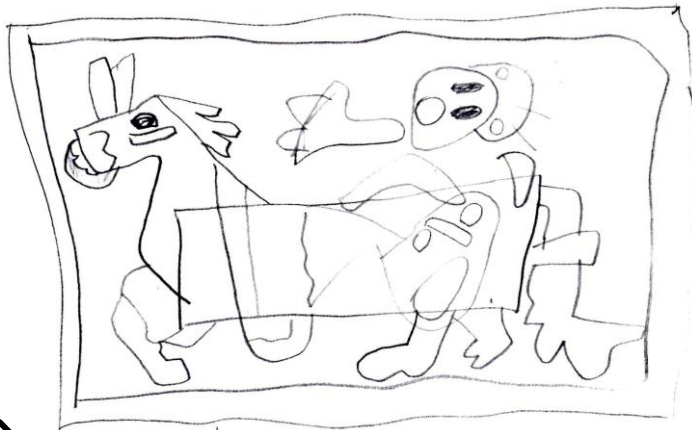
す。孤独、悲しさ、優しさ、祈りを

感じさせる作品を作っています。

(菊池りの、山本舞羽)



イラスト：  
荒井聖、熊谷理菜、菊池りの、  
本多こころ、山田愛佳、山田和佳、山本舞羽



あほんだらめ

気に入った作品は斎藤義重さんの『あほんだらめ』です。かわいい作品の中で一番きれいだったので、これに決めました。(山田和佳)



会場では、馬場のぼるさんのマンガも読めるよ!

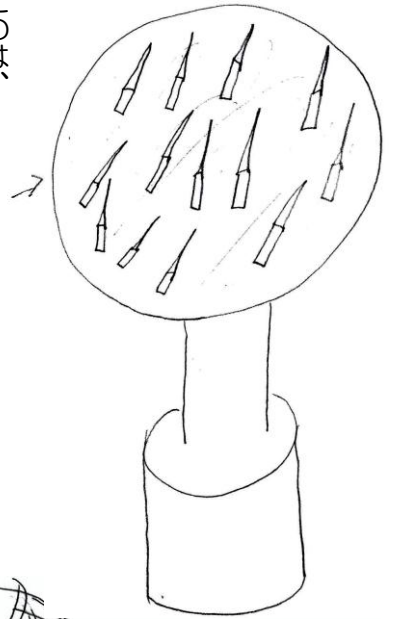


『針供養A』という作品があって、その作品は注射の針がしまっている作品でよかった。もう一つ気に入ったのは、阿部合成さんの絵です。阿部さんの絵はかなしい絵や不気味な絵が多くて、そのうちこの絵がうな絵ばかり描くのか気に入りました。(山田愛佳)



電子回路の中における放射能による養殖

ちゅうしゃの針が中にたくさん入っている



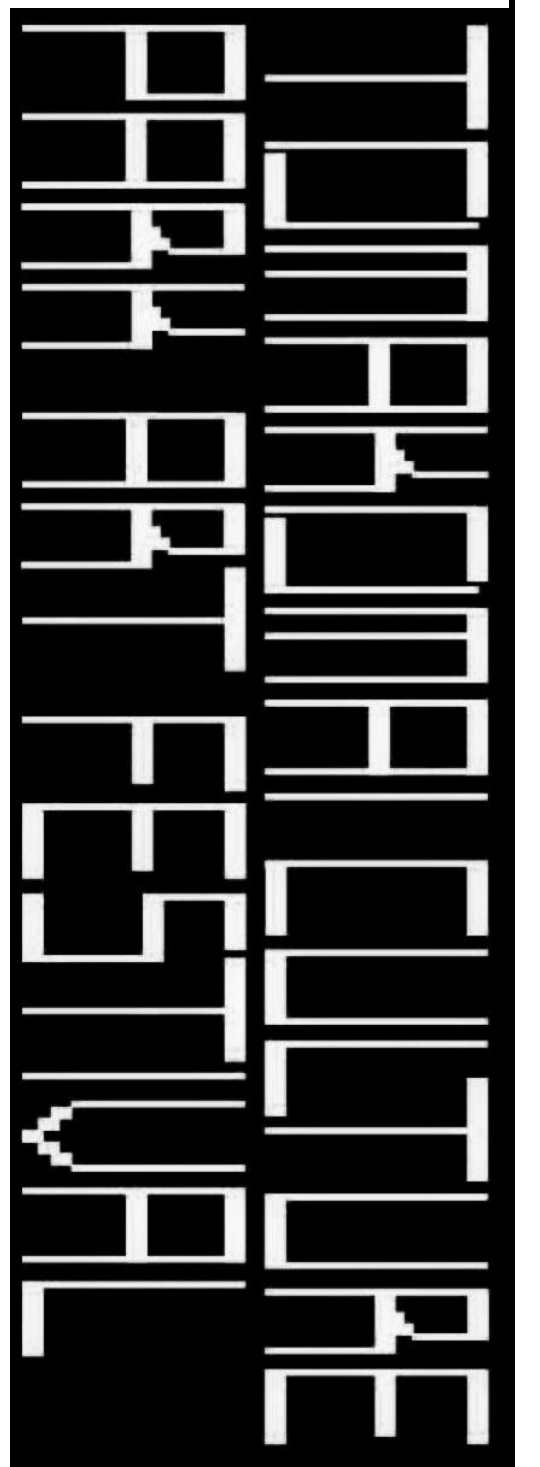
「かわいい」と感じたびとこま記者も多かった今回の展覧会、君はもう見たかな? 作品名や作者名の書かれた説明プレートには、いつ作られたかも書いてあるよ。作品が作られた頃はどんな世の中だったか想像しながら見ているびとこま記者もいたよ!

君はどんなふうに作品を見るかな?



by あ

# 文化公園 アートフェ スティバル



アートフェスティバルが文化公園で七月二十六日と二十七日に開催されました。

アーティストの田中泰晃さんにもインタビューしました。田中さんは「作業員のは役者さんをしています。人と仕事をしながら、楽しんでるんです」と言っていました。

アートフェスティバルの実行委員長として初日の開会式に来ていた、

マサカゴロンダ「Z」をするそうです。どこがスーパーかというと、普通のだるまさんが転んだとは違い、人数が多いとこると面白いポーズをとつた人が勝ちになるところがスーパーです。「たくさんの人に来てほしい。人数が多ければ多いほどおもしろいです。」とコメントしてくれました。

岩倉市長は『びとこま』をちょっとだけ読んでいたことがあり、

「だるまさんが転んだ」というのは、昔からあります。十二時を過ぎると、踊り手は「ヒップホップ」を踊っています。

「開会式であいさつをするので来ました。明日の天気が心配ですが、たくさんの人に来てほしいです。」とコメントしてくれました。

「熊谷陽奈、本多 怜奈、山田和佳」に取材しました。森山さん

二六日(土)は、「光の箱をつくろう!」というワークショップが開かれました。光の箱は、美術作家の松村泰三さんが考えました。誰でも作ることができるキラキラ光る箱です。銀色のテープを丸やハートの形にしたものを紙の箱に詰めていき、裏にセロハンを貼っていきます。完成した箱は後ろからライトを当てたり、日光に当てたりすると想像もできないような複雑で美しい光の模様が見えます。当日は百人を超える人たちが参加して、完成した箱を積み上げ、苫小牧市美術館のラウンジで展示されました。夜の文化公園からは色とりどりの光の壁を見ることができ、たくさんの方が記念写真を撮っていました。次の日は光の箱の壁をヒックリ返し、今度は日光を当て、館を訪れる人が見ることができるようになっていました。ライトでも日光でもとてもきれいに輝きましたが、それぞれ全く違う光り方になり、光の不思議を感じました。

普段の明かりを消し、独特の音楽が響く中、二人のダンサーがパフォーマンスを見せてくれました。美術館の研修室は怖ろしいような悲しいような不思議な雰囲気でした。

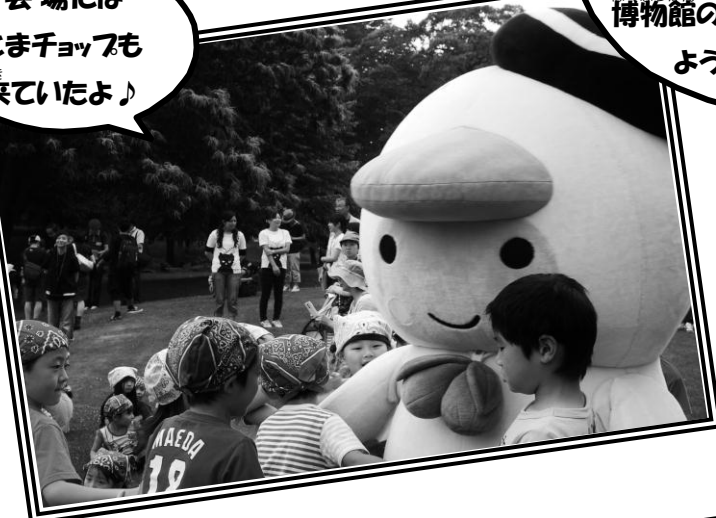


二七日(日)には、田中ハルと齊藤智仁による舞踏公演「かきもがれ」が行われました。会場には四〇名以上の観客が来場。特に子ども(赤ちゃんも!)の観客が多かったことは普段の舞踏会場では見られないことです。無料の公演ということもあってと思うけれど、文化公園アートフェスティバルというイベントがあったからこそこの環境でした。公演が始まると、子供たちは驚いたような反応を見せていたけど徐々に二人の踊りに集中するようになっていました。初めて体験した舞踏の世界観や緊張感、そして踊り手の二人が見せる生きる悲しみと喜び。それらを今、理解することは難しいかも。けれど、そこに漂うものは感じてくれたかもしれません。幼い子供の頃に舞踏を体験したという事実。その事実はずっとこの先、糧や力になることでしょう。そして、私たちは今後もこのような機会を創出し続けたいとあらためて思いました。

## 「まこまい」と「アート」のようぼろ



会場にはとまキョウフも来ていたよ!



藤幼稚園の園児は組体操を見せてくれたよ!



## とまこまいに住むアーティストに聞いてみよう！

札幌芸術の森の展覧会に参加しているそうですね？

「札幌芸術の森では、「Sprouting Garden—萌ゆる森—」という展覧会が開かれています。

Sprouting(スプラウティング)は「芽生える」、Garden(ガーデン)は「庭」という意味もあり、屋外のとても広い森の中に芸術家の作品がたくさん誕生するという内容です。

れおちゃんも作品を出しています。青い舞台のような作品は森の中でとても目立ち、見る人が作品の上ののって写真を撮れるようになっています。その写真をれおちゃんに送って、見ると芸術家が一緒に新しい風景を作れるように考えられています。

ほかにも丘の上をトボトボ歩く鉄線でできた犬の群れや、その場で火を焚いて焼きあげた陶芸の作品、野外美術館の中にある「佐藤忠良記念子どもアトリエ」や芸術の森のとなりにある「関口雄揮記念美術館」にもたくさんの作品が展示されています。

そして、芸術の森美術館は北海道で初めてとなる国際的な芸術祭「札幌国際芸術祭」の会場のひとつにもなっています。霧や音などを使った不思議な作品などを見ることが出来ます。芸術の森は文字通り、芸術作品があふれています。」



びとこまでは「れおちゃん」のニックネームでおなじみの藤沢レオさんは、とまこまい たるまえ さくひん つく ほっかいどう かいかい かつやく 苫小牧の樽前で作品を作り、北海道だけでなく海外でも活躍しているアーティストです。

## とまこまいに来たアーティストに聞いてみよう！

7月から9月末までの間、

東京から苫小牧に来て、樽前で生活しながら作品づくりに取り組むアーティスト、田中康晃さんにインタビューしたよ！

「苫小牧は涼しい！樽前では人と

の繋がりがとても大切だと感じる。

色々な人に助けられています。

苫小牧の美術館では、青森展を見

ました。青森のすごい作品があって、

特別な時に来ただと感じました。

そして、博物館と一緒にいる

ところが新しいし珍しいし面白い

と思います。作品づくりは始めていますが、藤沢レオさんの作品づくりを手伝ったり、札幌で芸術祭を見たいしなが

ら、考えたい感じたいすることを大事にして、ゆっくり取り組みます。」

田中さんの作品は9月6日と7日、札幌芸術の森でアートパフォーマンスとして見る事ができます。芸

術の森でのパフォーマンスが終わったら、苫小牧市内での作品展示についても考えたいそうです。「も

のをつくる」のは、言葉では表せないことを表現すること、自分はまだ勉強中」という田中さんが、ど

んな作品を見せてくれるのか楽しみですね♪



ふんか こうえん 文化公園アートフェスティバルでは、『スーパーダルマサンガコロンダ Z』で、会場を盛り上げた田中康晃さん。

# こうほうぶ きしゃしょうかい こども広報部記者紹介

だいにだん  
第二弾!!

記者たちがおたがいに取材し合いました。

ほんだ きしゃ  
本多こころ記者は、

ひがししょうごねんせい  
東小の五年生です。いま、ハマっていることは、  
フラダンス。小さい頃からダンスが好きで、今年の三月に  
習い始めたそうです。いま、好きな本は、「犬バカ」。ワンちゃん  
が事件を起こし、それをみんなで解決するというお話です。  
飼ったことのある動物が、犬一匹、猫一匹、ウーパールーパー  
一匹、金魚約百匹だそうです。すごいですね。  
作文は、札幌の小学校三年の時、あるイベント  
で、準優勝したことがある  
そうです。

あらいせいきしゃ  
荒井聖記者は、

たるとまへしょうごねんせい  
樽前小学校の五年生で十才です。  
好きな食べ物はみかん。きれいな食べ物は  
あんこで、あまい物がきれいだそうです。  
好きな本は、ハリー・ポッターです。  
聖ちゃんは大人っぽいなと思いました。

いとろ きしゃ  
伊藤なつみ記者は、

ひがししょうごねんせい  
東小学校の五年生で十才です。  
好きな食べ物は手まきずしできれいな  
食べ物は、ナスで、煮たり焼いたりした時  
の食感がイヤだそうです。好きな本は  
小説で、好きな物が、わたしと似て  
るなと思いました。

やまだあいかきしゃ  
山田愛佳記者は、

ほっこうしょうよねんせい  
北光小の四年生です。好きな  
食べ物は、うどん、好きな本は、怖い話  
の本です。びとこまに参加しようと思っ  
たのは、「書くのが好きだから」です。

くまもん (門馬辛次さん) は、

さんじゅうごさい  
三十五才です。昔は小説が好きで  
いま、しんぶん  
今は新聞が好きで、朝日、毎日、読売、北海道  
新聞の4つをとっているそうです。  
好きな食べ物は回転ずしで、きれいなのはマヨネーズ  
だそうです。理由は、子どもの時は好きだったけど、食べ  
すぎてきれいになったそうです。  
面白い人だなと思いました。



くまもんは新聞記者です。  
びとこま記者に取材の  
コツを教えて  
くれました!

あみゅーにおいでよ!

こどもとおとなの美術展

# 木と石にあそぼう

平成26年9月27日(土)~11月3日(月・祝)



池田裕太《うたかたの風景》2012年、作家蔵

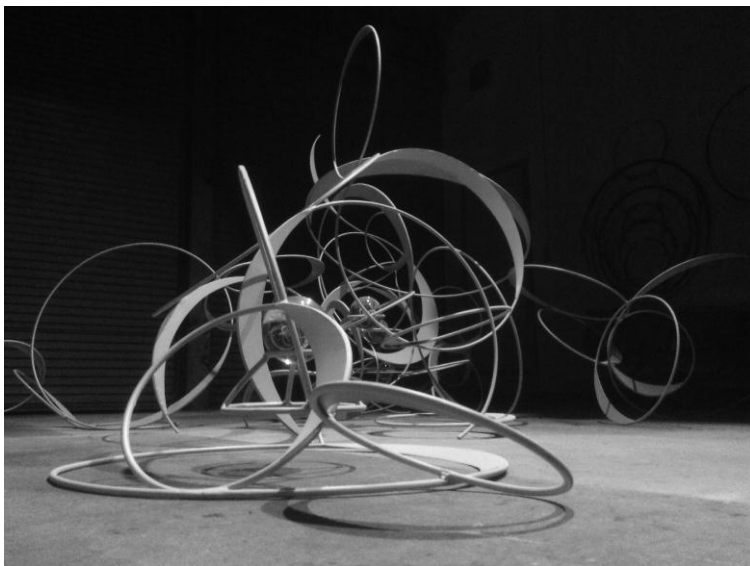
道端の木の枝や石ころを遊び道具にしてみたり、何かの生き物にみだてて遊んだ経験はありますか?

苫小牧市美術博物館の次の展示は身近な素材である木と石をつかった作品を紹介し、作家によってさまざまに変わる木や石の形や雰囲気を感じ楽しんでください。(学芸員 福田 絵梨子)

アーティストとはなそう どんな風に作品を作っているのかな? どんな材料を使っているのかな?  
アーティストにいろいろな疑問をきいてみよう!

定員 各回20名 対象 小学生から 申し込み方法 9月27日(土)9:30よりお電話(0144-35-2550)にて。

疑問に答えてくれるアーティスト 国松 希根太さん 日時:10月11日(土)14:00から15:00  
田村 純也さん 日時:10月25日(土)14:00から15:00



《起源—全てはそこから...》2014年、作家蔵

あみゅーにおいでよ!

中庭展示vol.4

## 千代明 起源—全てはそこから...

次の中庭展示では、日高町で作品を制作する千代明さんを紹介し、

千代さんの作品は、かたい金属でできていますが、自由でのびやかな形をしているので、とてもやわらかそうに見えます。千代さんは、宇宙や自然のエネルギーなどをテーマにしていて、今回も宇宙や生命のはじまりをテーマにした作品が展示されます。

(学芸員 福田 絵梨子)

製作	苫小牧市美術博物館 こども広報部「びとこま」 NPO 法人樽前 arty プラス
取材	荒井 楓、荒井 聖、伊藤 なつみ、菊池 りの、亀卦川 菜、熊谷 陽奈、熊谷 理菜、黒滝 直人、浜 明日美、本多 こころ、的場 翔、麦島 怜奈、山田 愛佳、山田 和佳、山本 舞羽
編集	小河 けい(NPO 法人樽前 arty プラス)
発行 (お問合せ)	苫小牧市美術博物館 〒053-0011 苫小牧市末広町3丁目9番7号 TEL:0144(35)2550 FAX:0144(34)0408 HP:http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/ E-MAIL:hakubutukan@city.tomakomai.hokkaido.jp
発行日	2014(平成26)年8月

(^v^)/ お詫びと訂正 (^v^)

「美術館広報部」は今年から「こども広報部」になりました。びとこま10号の8面、「協力をお願い」のところで、間違っ、「美術館広報部」のままになっていました。お詫びして訂正します。

編集長 おごちん



感想などメッセージをお待ちします♪